

今回、ASCO GI に参加した。主たる内容は以下の通りである。

KRAS wild 大腸癌に対する Panitumumab を使用した 5 clinical trials がドイツより JY Douillard らにより報告された。1<sup>st</sup> 2 trials, 2<sup>nd</sup> 3 trials であり、いずれも FOLFIRI or FOLFOX combination 823 例において安全性と副作用について報告され、皮膚障害 35% 下痢 17%、低アルブミン血症 5%、Infusion reaction <1%の報告があった。重篤な血液毒性はなく、安全性が示された。

Cetuximab with chemotherapy as 1<sup>st</sup> line for mCRC : meta analysis of the CRYSTAL / OPUS to KRAS and BRAF mutation status ドイツ CH Kohne らより報告され、KRAS wt 845 cases (BRAF wt 730 cases, BRAF mt 70 cases)を対象とした。

	KRAS wt n=845		KRAS wt/BRAF wt N=730		KRAS wt /BRAF mt N=70	
	CT	CT+Cet	CT	CT+Cet	CT	CT+Cet
OS	19.5	23.5	21.1	24.8	9.9	14.1
HR	0.81		0.84		0.62	
P value	0.0062		0.0479		0.0764	
PFS(mon)	7.6	9.6	7.7	10.9	3.7	7.1
HR	0.66		0.64		0.67	
P value	<0.0001		<0.0001		0.2301	

wt=wild type mt=mutated type

CT : Chemotherapy Cet : Cetuximab

KRAS 野生型の大腸癌患者において、OS と PFS において Cetuximab の有用性が示された。1<sup>st</sup> line 治療において Cetuximab を加えた化学療法は KRAS 野生型大腸癌患者において OS and PFS が優位に改善することが示され、さらに BRAF 変異を認めると予後が悪化することが示された。

XELOX Bv 1<sup>st</sup> line K Muro らにより報告され、有効性 72% (CR 4%, PR68%) PFS 11.0m OS 27.4m と優れた成績が報告されていた。

多岐にわたる最新の消化器がん化学療法における知見を得、今後の臨床診療及び、臨床試験、治療試験に対する発案、参加に有意義であった。